新年のご挨拶

代表理事組合長　田中　昌文

組合員の皆様、明けましておめでとうございます。
ご家族お揃いで清々しい新年をお迎えのことと思います。
例年は広報紙「木魂」の新年号でご挨拶申し上げていましたが、今年は諸般の都合で発刊できない事から、ホームページを活用してご挨拶申し上げることをお許し願います。

さて、我が国は世界各国との貿易により経済社会が成り立っていますが、昨年の米国との貿易関税の問題や年末に勃発した中国との安全保障に端を発した政治問題など、大きな課題が日本経済への影響について懸念されています。

私たちの組合活動においても、ここ数年は木材の海外輸出から国内需要にシフトする中で、直接的な影響が少ないとは言え、木材流通においては少なからず流通量や木材価格に影響が及ぶものと懸念されます。

今、国では新年度当初予算が進められていますが、森林・林業の分野では森林資源の循環利用施策を要求の柱としている中、人工林の「切って、使って、植えて、育てる」活動を通じて CO2 の吸収源機能や木材利用を通じた長期貯蔵(固定)する効果を予算要求理由の一つとして、森林整備や木材利用の促進を図ることとしています。

森林の循環利用を進めるためには、所有者の関心の希薄化に伴い適正な管理水準が確保されない状況とともに、山林境界の不明確化が深刻化を増すなどの課題の解決に向け、既に制度化されている森林経営管理法の運用や森林環境譲与税の課税配分等により、通常予算の活用と併せ、新たな段階での林業経営の推進を図ることが重要です。

また、組合経営においては、2018 年に策定した森林組合経営計画書を作成し、数値的目標を定めて経営の指針とし取組を進めてきましたが、折しもコロナウィルス感染症が世界的な広がりを見せ、事業推進が著しく制限され計画の活用がままならない状況で 2022 年に期間満了を迎えました。

そこで、全森連が定めている「JForest ビジョン 2030」や県の新たな「ふくいの森林・林業基本計画」の数値的目標を念頭に、年度末までに組合経営の指針となるべき新たな経営計画書の改定を進めています。

新しい年の到来を前向きに捉えながら、嶺南地域の森林・林業の活性化と森林環境の保全に寄与するため、役職員一丸となって取組んでまいりますので、組合員の皆様には組合の活動に対するご理解とご協力を戴きながら組合利用を通じて適正な森林管理をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、
年頭のご挨拶とさせていただきます。